

常任委、特別委の新人事決まる

十二月十八日の本会議で各常任委員会委員(八面に掲載)と予算特別委員会委員などが決まりました。

予算特別委員会

委員長 飯野 重男
副委員長 加倉井昭喜
委員 高橋 靖
舘 静馬

情報委員会

委員長 鶴岡 正彦
副委員長 本澤 徹
委員 鈴木せつ子
田所 嘉徳

監査委員

新井 昇
飯塚 秋男

議会運営委員会

委員長 細谷 典幸
副委員長 菊池 敏行
委員 新井 昇
飯泉 淳

〃 海野 透
〃 錦織 孝一
〃 田山 東湖
〃 川口 浩

〃 高崎 進
〃 江田 隆記

〃 荻津 和良
〃 狩野 岳也
〃 佐々木忠男
〃 高崎 進
〃 半村 登

永年在職者表彰

十月二十八日及び十二月三日に茨城県議会の永年在職者表彰が行われました。表彰を受けた議員は、次のとおりです。

十五年在職
田山 東湖 議員
鶴岡 正彦 議員
十年在職
臼井 平八郎 議員
武藤 均 議員
(十一月七日辞職)

新議員

〇十一月二十三日の茨城県議会議員守谷市選挙区補欠選挙で梶岡博樹議員が当選されました。
〇十二月十四日の茨城県議会議員常陸太田市選挙区補欠選挙で西野一議員が当選されました。

決算特別委員会

決算特別委員会は、平成二十年第三回定例会で付託された「平成十九年度茨城県公営企業会計決算の認定」及び「平成十九年度茨城県一般会計及び同特別会計歳入歳出決算の認定」について審査するため、第四回定例会まで計六回開催しました。

委員、関係部局長などの出席を求め、決算書などの説明聴取、監査委員の決算審査意見を参考に、予算が議会の議決の趣旨に則り適正かつ効果的に執行されたかなどの点に留意して審査を行いました。

最後の総括質疑では、巨額の財源不足を踏まえた来年度の予算編成方針、法令などに基づく県の監査・検査業務のあり方、不正経理問題に関する会計検査院の検査及び県独自調査の状況などについて質疑がありました。

●質問者
加倉井昭喜 (自由民主党)
佐藤 光雄 (民主党)
本澤 徹 (自由民主党)
山中たい子 (日本共産党)
高崎 進 (公明党)
舘岡 正彦 (自由民主党)

予算特別委員会

A委員(自民) 世界同時不況は我が国の外需依存型の経済に大きな影響を及ぼしているが、企業が雇用を守り、人件費の割合を高めていくことで内需の喚起を図る必要があると考える。

中小企業対策は、資金繰りを支援するためのセーフティネット融資の補正予算を提出し、中小企業に十分活用してもらえよう周知徹底を図っていく。また、企業の資金需要にこたえるよう金融機関に対しても要請していく。

D委員(共産) 養護学校の児童生徒数の増加は著しく、仮設も含め県全体で百三十教室が不足し、通学区域もあまりに広大。学校新設も視野に入れて教室不足の解決に即対応すべき。

成制度となっている現状でもあり、今後の財政状況や他県の状況なども踏まえながら中期的な課題として検討したい。

知事 我が国が食料やエネルギーを輸入し続けるためにも、引き続き外需は重要だが、労働分配率を高め、内需を喚起していく。今後、様々な機会を捉えて申し上げていきたいと考える。

C委員(自民) 農業高校と農業高校との連携を深め農業大・学校への進学を促していくため、どう働きかけていくのか伺う。

E委員(公明) 厳しい経済状況の中、生活が苦しいと感じる県民はさらに増えると思われる。生活支援対策の一つとして乳幼児医療制度の対象年齢の拡充を図る必要があると考えるが、

F委員(自民) 「量出制入(適正な歳出に応じて歳入が決まる)」の役割を担うべき地方財政計画が、「量入制出」となっており、困難な財政運営の一因となっているのではないかと。現在の地方財政制度の問題点に関する所感は、

(ほかに、分権委第二次勧告に対する評価、県税徴収率向上策とその効果なども質問)

農林水産部長 農業高校に向いての出前講座、オープンキャンパスなどで農大への理解を深めているほか、教員の人事交流なども実施している。さらに、来年度から専修学校となることから、卒業後に大学三年生からの編入が可能になり、農大の魅力は増すと考えている。

(ほかに、非正規労働者の雇用確保、中小企業融資なども質問)

(ほかに、中小企業融資資金貸付金、景気対策本部なども質問)

B委員(民主) 雇用や中小企業の経営環境は厳しさが増しているが、県の取り組みはどうか。

知事 雇用対策は、離職者の再就職支援や採用内定取消問題等に国と連携して取り組んでいく。

その分の新たな財源が必要である。本県は全国平均レベルの助

成制度となつてはいる現状でもあり、今後の財政状況や他県の状況なども踏まえながら中期的な課題として検討したい。